

住友林業の取り組み

住友林業



「木の可能性」を追求し、
事業活動を通じて社会と地球環境に貢献する



植林前の別子銅山



現在の別子銅山跡地

「植えて、育てて、活用し、また植える」。
森林資源を受け継ぎ、未来へ残すことが豊かな社会をつくりだす。
——「保続林業」を基本理念に。——

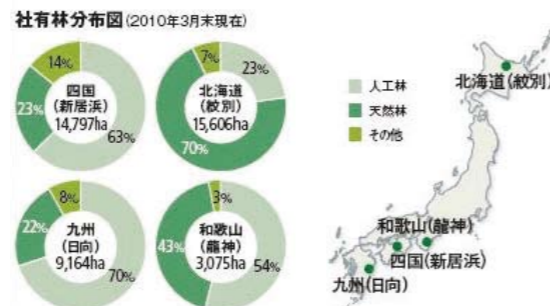
住友林業グループのルーツは、320年前に四国の別子銅山を開拓し、銅の採掘を始めたことにさかのぼります。別子銅山は日本有数の銅山として順調な発展を遂げましたが、明治期に入ると、銅の精錬による煙害と、燃料として大量の木を伐採したことにより、山は荒廃してしまいました。このとき、当時の別子支配人であった伊庭貞剛は「国土報恩」の精神から荒廃した山を元の姿に戻すため、「大造林計画」を実施し、多い年には年間100万本以上の植林を行って山に緑をよみがえらせました。目先の利益にとらわれることなく事業を進めていく精神は、「住友の行う事業は、社会・国民のためになるものでなければならない」という事業方針となり、現在の経営理念にも受け継がれています。

総面積約42,600ヘクタール。
日本の国土の約1/900に相当する社有林を管理

住友林業は北海道、和歌山、四国、九州に総面積42,636ヘクタール(国土面積の約900分の1)の社有林を保有しています。

社有林は、木材生産を重視する「経済林」、環境保全を重視する「環境林」に区分しています。

施業については、生態系など周辺の環境に配慮するとともに、適正に間伐を実施。収穫期を迎えた成長の良い森林は「小面積皆伐」による効率的な伐採を行って再び植林するなど、さまざまな手法を用いて持続可能な森林経営を実現しています。



住友林業社有林
四国(愛媛県 高知県)

地球環境に配慮した住まいづくりが注目されるなか、環境共生住宅として「木の家」が改めて注目を集めています。木は、再生可能な天然資源であり、石油をはじめとする化石燃料とは違い、計画的に植林と伐採を繰り返すことで利用し続けることができます。また、木は、その成長過程において、地球温暖化の原因とされるCO₂を吸収し、炭素として固定します。

いったんCO₂を吸収した木は、伐採され、建材として住宅に用いられた後も炭素を固定し続け、地球温暖化防止に貢献します。このことから、「木の家」をつくることは、「街に森をつくること」といわれています。このように、「木の家」はその家に暮らす人たちの幸せだけでなく、地球環境にも優しく環境共生にもつながります。

森林には、水を蓄える、洪水や土砂崩れを防ぐ、CO₂の吸収により地球温暖化を抑制する、生物多様性を保全するといった、多様な公益的機能があります。そのような機能を有効に働かせるためには、適正な森林管理が必要になります。

住友林業グループは、木材資源を永続的に利用するためにも、持続可能な森林経営を行う必要があると考え、国内外での取り組みを進めています。



「住友林業の家」の主要構造材の国産材比率を約70%まで高めるという目標を2008年度に達成しました(マルチバランス構法が対象)。



TOPICS 富士山「まなびの森」プロジェクト

「まなびの森」プロジェクトは、台風被害を受けた富士山麓の国有林を舞台に、緑豊かな自然林を復元することを目指した活動です。平成10年に始まり、ボランティアによる森づくりを通じた社会貢献活動として、静岡森林管理署や地元の皆様等のご協力を得て100年計画で行っています。既に3万本をこえる自生種を、鹿害対策を施しながら植林し、現在は枝打ち、間伐等の保育施業を実施しています。



国土防災技術の環境への取り組み

国土防災技術株式会社



Soumoku倶楽部の活動

国土防災技術は、1966年の会社創設以来、「土と水と緑」にかかわる技術で、安心して安全な人々の暮らしを守る企業として社会に貢献しています。「防災」と「環境」のかかわりは、地球温暖化によるゲリラ豪雨や先の台風12号による土砂災害などによって、近年その重要性が高まっています。

いつも自然と隣り合わせで仕事している私たちは、その恐ろしさも素晴らしさも知っています。皆様に自然のしくみを知っていただくことで、自然とのつながりを再確認のお手伝いが出来ればと考え、環境や防災に対する活動を総称して「Soumoku 倶楽部」を発足しました。

環境への取り組みは、防災・減災という観点からも非常に重要なものです。災害がどのように起きるのか、わかりやすく知っていただける機会をご提供し、災害によって失われる命や財産、生活基盤を守り人々が安心して暮らせる社会の実現への一助となればと活動を行っています。



Soumoku 倶楽部とは

当社では、山形県南陽市において、平成15年度から企業のCSR（企業の社会的責任）の一環として森林整備活動を実施しています。約75haを対象として管理の行き届いていない森林の間伐や下刈りなどの作業や、むかし修験者が通ったとされている道の復元などを地元の方との協働作業により実施しています。

山形県置賜地方には、古くから伝わる草木供養塔という珍しい石碑が数多くあります。これは、木や草の恩恵によって人々の生活が支えられているとの考え方から、草木の恩恵に感謝を込めて供養を捧げる石碑です。自然と密着した企業として、その恩恵に感謝したいとの思いを込めて、環境や防災に対する活動を総称して「Soumoku 倶楽部」と名付けています。

● 防災・環境教育

小中学校の総合学習の時間や、NPOとの協働、市民参加型のイベントなどとおして環境・防災教育を実施しています。環境・防災教育は、自然科学などの知識を一方向的に伝えるのではなく、参加者と一緒にさまざまな事柄のつながりを再発見したり、ひいては生きていく上での考え方の軸を見直したりするキッカケを創り出すものだと考えています。

より身近な事例を取り上げることによって、物事を自分事として捉えられるよう、基本プログラムを中心に対象者の方や地域に合わせたオーダーメイドのプログラムを作成・実施しています。プログラム内容は、ジオスタディーツアーや海藻おしぼ、自然を体験する種まき、ネイチャーゲームなど様々な方法で開催しています。



森林整備体験

● ドバスの DOPAS 土のバステル

防災や環境の「しくみ」はとても難しいので、子どもから大人まで楽しみながら学習できるように私たちは、当社ならではの防災環境教育活動ができないかと考えました。

当社が長年実施している地すべり調査のために地中深くから掘った粘土や土をリサイクルしたバステルを開発し、親しみやすいアートとおした活動を全国各地で行っています。



種まき体験



ドバス



ドバスでお絵かき



ドバスでお絵かき
(美術の先生向け講座)

コカ・コーラの環境への取り組み



コカ・コーラは、全世界で展開している事業指針「Live Positively ―世界をプラスにまわそう―」のもと、飲料の製造・販売、社会や環境への取り組む活動を通じて、プラスの循環を生み出すことを目指しています。とくに、地球環境への配慮を実際の行動に移すことの重要性を明確に示しています。

環境への取り組みは、コカ・コーラが社会とともに持続的に成長する上で欠かすことのできないことと捉え、3つの分野―地球温暖化防止、持続可能な容器、水資源保護―に力を入れて、地球環境対策を行っています。

水、エネルギー、廃棄物、容器を主な領域として、製造から物流、販売、オフィスに至るまで、全事業プロセスにおいて環境負荷を低減し、限りある資源の有効活用に努めています。あわせて、地域社会の一員として、全国各地で次世代の育成と環境問題への貢献を柱とする社会貢献プログラムを展開しています。

世界のコカ・コーラシステムでは、持続可能な水資源管理の一環として工場水源における長期的な水源保護プロジェクト Source Water protection (ソース・ウォーター・プロテクション) を推進しています。

環境省・林野庁の後援のもと、次世代を担う子どもたちを中心とした環境教育プログラムコカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクトを全国12のボトラー各社とともに2006年より実施し、地球環境について考えるきっかけを提供しています。

このプロジェクトでは、自然の大切な資源である水とその水を育むも森林の役割を学び、自然保護の重要性を理解することを目指し、植林や間伐などのフィールドワークや環境講座などのプログラムのほか、専用のWEBサイトで森と自然に関する情報の提供や活動報告を行っています。また、同サイトでは森の生態系の仕組みや地球温暖化に関する知識を学習できるプログラムを提供しています。

企業としての環境負荷低減への取り組みについては、「企業がみずから取り組むべきこと」と、ステークホルダーと「いっしょにできる取り組み」の両面で実施しています。たとえば軽量化PETボトルや植物由来の素材を配合したPETボトルなどの導入と並行して、日々の生活を通してお客様の製品選択が、リサイクルなどの環境負荷を低減するエコアクションにつながるよう、各種コミュニケーション施策を通じて空容器回収・リサイクルを促進しています。



荏原グループの環境保全活動



荏原グループ(株式会社荏原製作所と関係会社)では、従業員参加型の環境保全活動を継続して行っています。このような活動は、環境保全という共通の目的に向けて皆で力を合わせて取り組むというだけでなく、参加者それぞれが楽しみながらいろいろなことを感じ、発見することができる活動になっています。従業員参加型の環境保全活動のうち、森林保全の活動を中心に紹介します。

●「荏原グリーン基金」の活動

「荏原グリーン基金」は、紙の原材料が木材であることから、紙資源の節約と森林保全・緑化活動を目的としています。従業員がコピーや印刷をする時に、裏紙の利用や両面印刷をして紙を節約すると、節約した紙の枚数に応じてコピー機を管理しているグループ会社からコピー代金が割戻されます。この割戻金を主な財源として、社内外の森林保全・緑化活動に利用しています。つまり、従業員の日々の省資源活動が、みどりを守る活動につながっています。

この活動では、富士山の植樹活動を2003年から継続しており、毎年従業員と家族、20～30名が参加しています。

また、公益財団法人オイスカさんの「子供の森」計画をはじめ、様々なNGO、NPO、自治体などの森林保全活動にも協力しています。



富士山植樹活動

オイスカ「子供の森」計画の様子



●事業所のある地域での森林保全活動

荏原グループは、親会社の荏原製作所をはじめ、多くのグループ会社が本社を置いている東京都や、製造拠点のある神奈川県での森林保全活動を行っています。



神奈川県での森林保全活動



東京都での里山保全活動

森林保全活動の他、荏原グループでは、世界の荏原グループの従業員の子供もたちが自然や環境をテーマに描いた作品による展覧会「荏原グループ世界の子も環境絵画展」や、事業所内にビオトープを造成して観察会を実施するなど、環境をテーマにした様々な活動を行っています。これらの活動を継続して実施することにより、従業員と家族が楽しみながら環境に対する意識を向上させることを目指しています。

「荏原グループ世界の子も環境絵画展」社外展示風景





本サミットの開催に協賛をいただいた企業等の皆様


 **セブン-イレブンみどりの基金**
一般財団法人 **セブン-イレブン記念財団**

森林づくりの事業・活動等に対して協力・支援を行っています
財団法人 **日本森林林業振興会**
長野支部

 **三菱UFJニコス**
MUFG

 **住友林業**

**mitsui garden
hotels**

土と水と緑の技術で社会に貢献します
 **国土防災技術株式会社**

Coca-Cola

 **EBARA**



国際森林年記念イベント
学校林・遊々の森
全国子どもサミット in 信州



本報告書に関するお問い合わせ

「学校林・遊々の森」全国子どもサミット in 信州 実行委員会 事務局

〒386-2204 長野県上田市菅平高原1223-5751 [やまぼうし自然学校内]

TEL 0268-74-2735 FAX 0268-74-2795 e-mail info@yamaboushi.org